

# NIHON UNIVERSITY DISTANCE LEARNING DIVISION ALUMNI ASSOCIATION 日本大学 通信教育部校友会報

発行所: 日本大学通信教育部校友会

〒102-8251 東京都千代田区五番町12-5 TEL・FAX 03(3234)5858

発行責任者: 北村 周之/編集責任者: 師田 袈裟茂

通信教育部校友会ホームページ: <http://www.nudid-koyukai.sakura.ne.jp/wp/>

## 2024年 第53回 定期総会報告

子曰、不患人之不知、患己不知人也。  
「論語」

子曰く、「人の己を知らざるを患(うれ)えず、人を知らざるを患(うれ)ふるなり。」

現代語訳

人が自分を知ってくれないことを気にかけないで、人を知らないことを気に掛けることだ。

### 会長ご挨拶

日本大学通信教育部校友会会長



北村 周之

うございます。会長職を拝命して早いもので2年目に入りました。今年5月に開催した第53回定期総会の場において各議案について皆さまからご承認をいただきまして、誠にありがとうございます。

会員の皆さま、平素より校友会活動に多大なるご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。

日本大学通信教育部長  
大学院総合社会情報研究科長

### 部長ご挨拶

松重 充浩



の皆さまには、平素より通信教育部と大学院総合社会情報研究科に対する多大なご協力・ご支援を賜っておりますこと、誠に有り難うございます。心よりお礼申し上げます。さて、令和6年は、通信教育部と大学院総合社会情報研究科にとりまして、新たなスタートの年となつております。

通信教育部校友会の皆さま、「校友会報」第103号の発行おめでとうございます。貴校友会通信教育部と大学院総合社会情報研究科にとりまして、新たなスタートの年となつております。

### 校友会会長ご挨拶

日本大学校友会会長

大谷 喜一



には日本大学校友会の活動に対してご理解とご支援をいただいておりますことを心より御礼申し上げます。

校友会報第103号の発行、誠にありがとうございます。日頃より通信教育部校友会の皆様として役割を果たすべく感じることができま

まずに皆さまに校友会本部の動向についてご報告させていただきます。大谷会長は校友会役員のスリム化を掲げておられます。従来は各学部の校友会会長が本部校友会副会長を兼務していましたが、その人数を4名とする事になりました。ありがたい事に私もその4名の中に選出され副会長を兼任させていただいております。また、各委員会では校友会会員拡大はもちろむのこと、校友会が継続できるようにするための活発な活動を行うべく議論を展開しております。その本部校友会における最重要検討事項は「準校友会費」の有効活用、つまり学生支援をどうするかについて、従来の委員会とは別に特別委員会を設置し、大谷会長以下大学と連携を図れるように協議しております。

さて、通信教育部校友会として、昨年に引き続き、持続的な発展を遂げるために「準校友会(学生)支援」と「支部活性化への支援」を重点的に取り組んでまいりました。次に、支部活性化への支援についてです。通信教育部は、全国に支部を持ち、それぞれが地域社会と密接に連携しながら活動を展開しています。支部は地域毎の特性に応じた活動を行うことで、校友会全体の信頼と評価が高まると考えております。そのためには、ブロック内での支部連携強化とブロックと本部の連携強化体制が必須だと考えております。また、支部ごとの成功事例を共有し、他の支部でも活用できるような支援体制を整え、全国的な活動の底上げを図っていききたいと思っております。これらの取り組みを通じて、校友会全体が一丸となり、より強固な組織へと成長していくことを目指してまいります。会員の皆さま一人ひとりが校友会の活動に誇りを持ち、それぞれの役割を全うしながら、共に未来を創り上げていくことができよう、私自身も全力で努力してまいります。最後に、これまで以上に会員の皆さまのご協力とご理解を賜りますようお願い申し上げます。共に力を合わせ、より良い未来を築いていきたいと思います。

生たちらをサポートする教職員の奮闘ぶりを確認することができません。私は、これらの学生と教職員の姿勢こそが、通信教育部の「伝統」であると思っております。令和6年の通信教育部では、この「伝統」を80周年さらには百周年へと繋いでいくための試みが実施されております。より柔軟な形式での学習機会を提供を目指す「Sメディア」の導入、在校生による学園生活成果の学外発信の貴重な機会でありながら新型コロナウイルス感染症により中断していた「集夏祭」の5年ぶりの復活などが、それです。また、大学院総合社会情報研究科は、令和6年に創設25周年を迎え、同年9月に記念シンポジウムを開催しました。ここでは、同研究科のこれまでの歩みを振り返り、成果と課題および未来の姿を、修生・在校生・教員が共に議論する、おそらくは同研究科創設以来最大となる貴重な機会となりました。加えて、この25周年という節目の年に、同研究科単体の校友会組織が本部校友会の承認を経て正式成立しました。心からお慶び申し上げます。以上のような通信教育部・大学院総合社会情報研究科の取り組みは、「伝統」を受け継ぎつつ在校生や校友にとってより魅力ある学び舎となれることを目指す試みでもあります。そして、この試みの実現は、校友の皆様からの一層のご支援を得ることでも重要なポイントです。

たな執行部が成立してからもいささかも揺らぎませぬ。通信教育部と大学院総合社会情報研究科も同様です。どうか、校友の皆様には、これまで同様「忌憚のないご助言とご厚情あるご支援を賜りますようお願い申し上げます。最後に、ありがとうございました。校友の皆様が、この健康とご活躍を心から祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

く、発足から今に至るまで継続して様々な取り組みを行っております。取組を進めていく中では、法人のみならず、本校会においても多方面から校友会の改革のためのご意見を頂戴し、その「ひとつ」に耳を傾けてまいりました。全国の支部の皆様との交流を通じて、校友一人ひとりの母校への強い想いと、そして何より校友会の組織のすばらしさを改めて感じることができま

た。その一方、時代に即した運営方針や地方や若者をはじめとする会員減少という切実な問題にも直面し、さらに、大卒の共生組織体として、本校会の執行部を強化し、その運営に力を発揮してまいりまして、令和5年度収支決算、令和6年度収支予算案のほかに、多数の新規事業についてお諮りしご承認いただきました。令和6年度は通常の事業に加え、新規事業として「桜縁セミナー」の開催なども着々と進められております。11月1日には東京ドームホテルにおいて、5年振りの開催となる日本大学全国校友大会を開催いたします。全国の校友の皆様が集まり、親睦と絆を深めることを目的とした多様な企画を準備しておりますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。これらの校友会活動を通じて、健康と益々のご活躍を心から祈り申し上げます。